

大学院入試経験談

2017 院進 A クラス 董炬宏

皆さんと自分の入試経験を共有できることを嬉しく思います。まず、自己紹介させていただきます。2016年に華東理科大学を卒業し、同年の10月に亜細亜友之会外語学院に入学しました。専攻は材料工学で、来日の目的は大学院への進学を果たすことです。来日前、N1級合格のほかに、TOEFL試験で80点を取得しました。

理系の入試は文系のそれと違って、専攻ごとに試験の内容が異なりますので、志望大学の入試内容を事前に把握することをおすすめします。私は東京大学と東京工業大学しか受けていませんので、一概のことは言えません。私の専攻は、入試試験の際、研究計画書は不要です。筆記試験の成績による合否判断の割合が80%で、残る20%は面接の成績によるものです。個人的に、理系の試験は筆記試験の成績が占める割合が大きく、大学の募集要項にも記載があるので、そちらをよく読んでください。東京工業大学の場合、私の志望専攻の入試試験は専攻分野に関する出題がなく、筆記試験の成績でほぼ合否が決まります。東京大学の場合、その点数配分が以下の通りです。専攻問題満点600点、英語200点、面接50点です。このように、事前に志望大学の出題範囲を確認した上で、受験勉強の対策をとることがすごく大事です。

筆記試験の準備にあたって、自分の専攻に自信がないのであれば、塾に通うことをおすすめします。できれば日本語の教材で勉強をすすめてください。最初はきつく感じるかもしれませんが、出題も日本語で行うのがほとんどのことを考えると、そうしたほうが筆記試験と面接の両方に有利でしょう。私の場合、2か月をかけてすべての教材を、そして1か月で問題集と過去問を攻略しました。ちなみに、日本の教材費が高く、節約のために、私が使った教材等々は古本屋で購入したものや北区の図書館から借りたものがほとんどです。

また、ほとんどの大学院入試では英語が必須ですので、事前に準備しておくといいでしょう。TOEFLの成績はほとんどの大学で認められ、それ以外TOEICの成績も通用します。TOEFLのテスト成績は入試成績に換算される必要があり、テストで70点から90点まで取得した人の英語のレベルは、入試成績ではそれほど差がつかないと思います。英語に自信がない方は、ひとまずTOEFLで70点を取れるように頑張ってください。東京大学を目指すなら、TOEFLの点数を90点以上取ったほうが有利でしょう。

一言で言えば、専攻科目の準備をしっかりし、英語の資格を事前に取っておくべきです。日本語に関しては、日本語学校のスケジュールに合わせてしっかり準備すればよいでしょう。また、日本語学校では先生方による面接や研究計画書(学生の要請があれば)の指導もなされます。皆さんは時間を有効に利用し、きちんと準備を整えてください。

最後に、皆さんが各自の志望大学に合格できるようお祈りします。